

事業のタネシート

活動地域・団体名：米沢市

事業名称1：循環が見えるプレミアム野菜の生産、販売

あらすじ

本市は畜産業が盛んであるが、家畜排せつ物の適正な処理とたい肥の適正な管理が課題である。また、食料廃棄の削減は、取組みのハードルは低いものの、十分な効果をあげているとはいえず、食品ごみ・食品残渣の適正な処理も課題である。今般、産業廃棄物処理業者、畜産業従事者（牧場経営者）や消化ガスプラント事業者が、循環が見えるプレミアム野菜の販売する。これは、家畜排せつ物や食品ごみ・食品残渣から消化ガスを取り出し、発電する一方で、残った固形物をたい肥として活用するものである。

このたい肥を使用した土壌で野菜を生産し、野菜を肥育する土壌までが循環に含まれていることを証明した、プレミアム野菜を提供しようとするものである。

メインの生産、販売を畜産業従事者が行うに当たり、経営の安定を図るためにステークホルダーで知恵を出し合おうとするものである。

ストーリー

本市では2020年8月から消化ガス発電プラントが稼働しているが、その会社は産業廃棄物処理業者、畜産業従事者（牧場経営者）及び消化ガスプラント事業者で運営されている。家畜排せつ物（現在は牛フン）や食品ごみ・食品残渣を嫌気性発酵により消化ガス（メタン）を取り出し、メタンを燃焼することで発電を行っている。一方、発酵後には固形物と液体（消化液）が残り、固形物は脱水してたい肥に、液体は処理して下水道に廃棄している。

このたい肥は臭いが全くなく、乾燥すれば軽量で運搬も容易である。

このたい肥を販売し、及びたい肥を使用した土壌で野菜を生産し、野菜を肥育する土壌までが循環に含まれていることを証明して、プレミアムを付した野菜を販売しようとするものである。生産、販売を畜産業従事者（牧場経営者）が行うに当たり、経営の安定を図るためにステークホルダーで知恵を出し合おうとするものである。

		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	循環が見えるプレミアム野菜を生産し、販売する。	地域住民の理解 消化ガスプラント用土地の確保
②課題	家畜排せつ物の適正処理、悪臭、たい肥の適正管理	法人登記の手続き 資本金の準備
③なぜこの事業をやるのか（Why）	悪臭を抑制するために消化ガスプラントを利用し、消化ガスによる発電を行い、副産物であるたい肥を資源として活用することにより、地域循環が見えるため	買手の確保 農地の確保 地域の協力
④地域資源	家畜排せつ物（牛フン）、食品ごみ・食品残渣	送電システムの確保 豚フン、鶏フンと同様の成果が期待できるかの検証
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	地域循環が見えるプレミアム野菜 地域循環のたい肥を利用していることを証明する証書の発行 たい肥、プレミアム野菜のストーリー	
⑥担い手（Who）	産業廃棄物処理業者、畜産業従事者、消化ガスプラント事業者、農業従事者、コミュニティセンター職員、地域住民	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	ヒト：農業従事者、プレミアム野菜購入者、たい肥製造事業者、たい肥利用者 モノ：たい肥、プレミアム野菜、情報、ストーリー カネ：化学肥料購入の減、輸送費の減、域内の循環 コト：たい肥の活用、プレミアム野菜の活用（調理法や料理の提供）、情報発信	金融機関 青果物市場 自治体 東北電力ネットワーク株式会社 首都圏、仙台の野菜卸業者 首都圏、仙台の飲食業者 バイオガス発電事業専門家
⑧事業で生じる成果	環境：廃棄物の資源化、域内で持続可能な仕組み 経済：域内のお金の循環、域外からのお金の流入、人の交流 社会：雇用、人材流出の抑制、他地域からの流入	

事業名称2：米沢市SDGsプラットフォーム事業

あらすじ

令和3年度に「米沢市SDGs未来都市計画」を策定し、令和4年度においては、より一層おけるSDGsの達成に向けた取組を推進していく中で、SDGsをキーワードとして、市内の企業、小中学校、高校、大学、金融、団体等、多様な主体が緩やかに参画するプラットフォームを創出する。

ストーリー

本市におけるSDGs推進に向けたプロジェクトの一つとして、多様な主体が緩やかに参画する米沢市SDGsプラットフォームの創出を目指す。プラットフォームの主な機能として、①多様な主体が実施するSDGsの取組の見える化、②SDGsをキーワードとして、市内の多様な主体をつなぐ場の提供、③市民や企業などへの働きかけを通じたSDGsの取組の拡大とし、米沢市SDGs推進協議会においては、プラットフォームの運営管理や支援等を実施することにより、本市SDGsの一層の推進を図る。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック	
①ありたい未来	①鷹山公が根付かせた「ものづくりマインド」が市内経済をけん引するまち ②「現代の藩政改革」による健康長寿日本一のまち ③「草木塔」などの本市独自の精神文化を基軸にSDGsを実装する環境教育先進都市	・多くの申込をしてもらうための働きかけを検討する必要がある。 ・対外的に発信するべき取組を広く知ってもらえるかどうか。 ・新たな事業のタネ創出のために、より多くの事業者に「つなぐ場」に参加してもらえるかどうか。	
②課題	本市におけるSDGsにおける様々な取組が顕在化しておらず、ステークホルダー間のつながる機会が生まれづらい状況にある。		
③なぜこの事業をやるのか (Why)	市内の個人や団体等がそれぞれSDGs達成に向けて取り組む内容を紹介することで、自然体のSDGsに対する見える化を図り、SDGsの普及・啓発を図ることを目的とする。		
④地域資源	SDGsの達成に向けた取組を実施している、または取り組む意欲があり、目指しているSDGsのゴールが明確である個人もしくは企業、団体等。		
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	見える化：SDGs特設HP更新、取組の募集、市広報を活用した定期的な取組紹介 多様な主体をつなぐ：意見交換の場の設定、小中高をつないだ学びの場の創出等 SDGsの取組の拡大：研修会の開催、SDGs関連動画の作成支援等		
⑥担い手 (Who)	SDGsの達成に向けた取組を実施している人等、米沢市、米沢市SDGs推進協議会		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	本市におけるSDGsに関する取組が見える化し、参画者同士がつながり、協働や新たな事業のタネの創出(新たなSDGsに関する取組の見える化)の循環が生まれる。		つなぐ場（意見交換の場）のコーディネーター インフルエンサーの役割を担う方 (SNS等を活用している方)
⑧事業で生じる成果	米沢市SDGsプラットフォームの活性化により、市民のSDGsに対する意識醸成が図られるとともに、取組の市内外への発信の拡大につながる。		協働の意識を有する事業者